

## 日本産樹木年輪の AMS 炭素 14 年代測定による較正曲線の作成 AMS radiocarbon dating of Japanese tree rings for regional calibration curve

坂本 稔<sup>1\*</sup>; 尾崎 大真<sup>2</sup>; 今村 峯雄<sup>1</sup>  
SAKAMOTO, Minoru<sup>1\*</sup>; OZAKI, Hiromasa<sup>2</sup>; IMAMURA, Mineo<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 国立歴史民俗博物館／総合研究大学院大学, <sup>2</sup> 東京大学総合研究博物館

<sup>1</sup>National Museum of Japanese History / The Graduate School for Advanced Studies, <sup>2</sup>The University Museum, The University of Tokyo

炭素 14 年代を暦上の実際の年代に修正するには、年輪年代法などで実年代の判明した樹木年輪の炭素 14 年代をもとにした「較正曲線」が用いられる。先に公開された北半球用の較正曲線「IntCal13」は主に北半球高緯度地域の樹木年輪の測定結果に基づいているが、太陽活動の 11 年周期を相殺するため、また炭素 14 年代測定に必要な試料量を確保するためにも多くは 10 年単位の年輪が測定されている。AMS による炭素 14 年代測定 (AMS-<sup>14</sup>C 法) は 1mg 以下の炭素量でも測定が可能なことから、1 年単位の樹木年輪などより詳細な測定に応用できる。近年は測定精度が向上し、これまで較正曲線の誤差に隠されてきた炭素 14 濃度における北半球内の不均質性が次第に明らかになりつつある。日本版較正曲線の作成を目指して、これまで継続されてきた AMS による日本産樹木の炭素 14 年代の測定結果を紹介する。

キーワード: 炭素 14 年代法, 樹木年輪, 較正年代, 大気成分, 地域効果

Keywords: radiocarbon dating, tree ring, calibrated age, atmospheric inventory, regional effect